



今週の逸冊

コルナイ・ヤーノシュ自伝

思索する力を得て

コルナイ・ヤーノシュ著／盛田常夫訳

激動の世紀に生きた経済学者の人生と社会主義の崩壊

評者 池田信夫 須磨国際学園理事

よくも悪くも、二〇世紀の歴史を動かした最大の思想は、社会主義だった。それが間違いだったことも明らかだが、どこでどう間違えたのかは明らかではない。

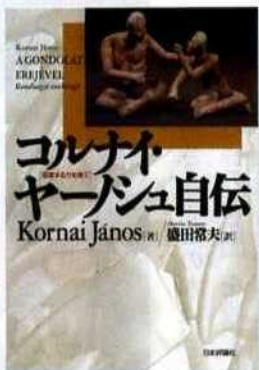
一九二八年にハンガリーで生まれた著者の人生は、そのまま社会主義の歴史と重なる。本書は、一個人の自伝を超えて「経済学の見えた二〇世紀」ともいえるべき貴重な同時代史である。

著者は共産主義者として青春を過ごし、戦後はハンガリーの社会主義政権の下で、ナジ首相のスピーチライターも務めた。しかしハンガリーの民主化運動は、五六年にソ連の軍事介入によって弾圧され、著者は政治の世界を離れて研究者になる。

彼の学問的名声を世界的にしたのは、六〇年代に発表した計画経済モデルである。これはワルラスの一般均衡理論を社会主義経済に応用したもので、著者はそれを計算機に実装して経済計画を立てる実験を行なった。



しかし実験は失敗した。それは計画に明確な目的や厳密な予算制約がなく、情報が中央当局に報告されるとき政治的に歪められるためだった。ハイエクの言



日本評論社 4700円

うのように、市場の本質は社会全体に分散した情報を分散したまま使えることにある。つまり著者の実験は、社会主義を効率的に運営することは不可能だということ逆

に証明してしまったのである。したがって社会主義経済が破綻することを、著者は早くから予想していた。彼は、その非効率性の原因を「ソフトな予算制約」に求めた。これは国営企業への融資が

焦げついたとき、政府が「温情主義」で追い貸しして融資がズルズルと拡大する現象で、日本の不良債権問題にも応用された。

ベルリンの壁が崩壊すると、著者の予想以上のスピードで社会主義は崩壊したが、それは過去の思想ではない。社会主義を意識して

導入された「福祉国家」は、今でも先進国の政治を強く呪縛している。著者は、福祉国家が財政的に破綻する危機も迫っていると警告し、官僚統制による温情主義を批判する。社会主義の負の遺産はいまなお残っており、それを清算することは現代的課題である。

ベストセラー通りすがり

コラムニスト 林 操



ソフトカバー版
ゲド戦記I
影との戦い

アーシュラ・K. ル=グウィン著
清水真砂子訳
岩波書店
1000円

目撃談が溢れる一方で、TVじゃなぜかCMから番組まで「大ヒット上映中!」です。

そういう大本営発表が続かなくなったのは、ほかならぬ原作者が先月、自分のサイトで「だめだこりゃ」宣告下しちゃったから。原著シリーズが出始めたのは1968年。つまりは世界的反体制運動まさかりの時期に現実の深い裏を描いた幻想文学なのに、40年後に日本で巨匠の息子（ただし素人）が手がけた映画版は、綺麗で薄いグローバルなオタク商品だもの。

というわけで、カネ払うなら映画版公開に合わせて廉価版が出た原作に。本誌の読者には、やっぱり安くて、けっこう平易な原著もお薦め。

見ると読むとじゃ……

公開初日の土曜日の朝に「大ヒット上映中!」ってCM打ってた映画が昔ありました。公取委に訴えたらか、なんてのは大人げないけれど、今よく似た状況にあるのが、この夏最大の話題作だったはずの「ゲド戦記」。

「寝た」「客、入ってなかった」その他いろいろ、ネットや雑誌には生々しい